**飯田**

　私は、卒業研究を経て、自分の非力さに気づきました。理解しているようで、理解できていないとしみじみ実感しました。同じメンバーに「ここは、どういうこと？」という質問があったとしても、満足のいく回答ができず、なんとなくできているという状態でした。最終的には、序盤よりも理解は深まり、プログラムを作ることをより楽しいと感じることができました。

　リーダを務めてこんなに自分の考えは伝わらないものなのかと、実感しました。話し合っているつもりが、肝心なことが伝わっていなかったりしてイライラしてしまったり、したこともありましたが、いい経験になりました。

**青木**

今回の卒業研究を通して、グループで一つの物を作る大変さを実感しました。自分のミスが他の班員にも影響しとても迷惑をかけました。またグループだからこそ助け合いができた点は良かったと思います。

この経験を会社に入社してから活かしていきたいと思います。

**鈴木**

今回の卒業研究は私にとってとても良い刺激になりました。

メンバーとの連携や情報の共有やわからない時の人への聞き方、相手への教え方など社会に出てからは必ず使うであろうことを学ぶことができました。

社会にでてからも卒業研究で学んだことを生かしながら日々精進していきたいと思っています。

**小沢**

　卒業研究を通して実感したことは、グループ全体でのコミュニケーションの重要性だと思いました。なぜそこを実感したのか、それはプログラムを一人で作りそれが動いたとしてもその後グループの人とプログラムを結合させた時お互いのシステムが噛み合わなくなり、エラーを起こしたりすることがあるという点を実感したからです。

エラーの原因となった部分を口頭で伝えあうことで情報の共有ができ、修正すべき点や見落としていた部分などを見直す機会があることは大切なことなので、社会に出てからも協力するということを常に見据えながら精進したいと思っております。

**折原**

今回の卒業研究を通して自分はプログラミングが苦手で自分の受け持つ画面ができるか不安でしたが班員の助けもあり自分の受け持つ画面が完成しました。

また、プレゼンでは自分はOPだったのですがプレゼンターとの意思の疎通がとても大事だと感じました。